

日本性科学会 ニュース

第18卷第1号

平成11年(1999年)3月

発行人:野末 源一 印刷所:絢文社

平成11年度 研修会および学会の予告

第28回 性治療研修会

日 時 平成11年4月25日(日)

場 所 山之内製薬株式会社2階ホール(東京・JR新日本橋駅 徒歩5分)

テ マ 性と薬物

第19回 日本性科学学会

第19回日本性科学会総会ならびに学術講演会を下記のように予定しています。奮って御来県下さいますよう御案内申し上げます。

期 日 平成11年10月9日(土)

場 所 三重県立看護大学 津市夢が丘1丁目1番地の1 TEL 059-233-5600

会 長 川野 雅資(三重県立看護大学精神看護学教授)

メイインテーマ 性科学のコラボレーション —多職種の協働—

I 特別講演 「生殖医療と倫理」 広井 正彦(山形大学医学部教授)

II 会長講演 川野 雅資

III パーレルセッション 「性科学のコラボレーション —性科学者からみた—」

IV シンポジウム

1. 「性科学のコラボレーション —コメディカルからみた—」

2. 「生活者としての性」

V 市民公開講座 「子供の成長・発達と性」 清水 将之(小児心療センターあすなろ学園長)

[一般演題]

締 切 平成11年7月17日(金)

400字以内の講演要旨をワープロにて記載し、下記宛にお送りください。

〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地の1 三重県立看護大学

第19回日本性科学会事務局 担当:村本 淳子

TEL 059-233-5600(内線) 5617 FAX 059-233-5617

ホームページアドレス <http://www.mcn.ac.jp>

第14回WAS(世界性科学会)案内

期 日 1999年8月23日(月)~27日(金)

場 所 香港;Hong Kong Convention and Exhibition Center(HKCEC)

会 長 Prof. Emil M. L. Ng

早期登録期日 1999年4月30日

お問い合わせは日本性科学連合事務局(03-3288-5200)まで

Vol. 18

日本性科学会

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

No.
1

性・避妊行動調査

青山病院産婦人科 早乙女 智子

1997年に発足した「性と健康を考える女性専門家の会」では、約40年近く経口避妊薬が認可されていない日本で、女性が性や避妊に対してどのような態度をとっているか1998年10月に実態調査した。

対象は一般勤労女性、大学生（看護系、一般）、高校生の合わせて1,212名（1,801名中有効回答67.3%）。未婚者の性経験は大学生で約6割、高校生で約3割と他調査と同様であった。性交回数は特に大学生では月5回以上が3割近く、パートナー数も複数が25%以上ある。避妊方法は全体でコンドームが9割、陸外射精が3割である。広く使われているコンドームだが、実は確実に避妊できると思っているのは3割程度に留まった。これは消極的な選択としてピルを始めとする確実な避妊方法が手にはいらないからであると思われる。また、ピルや性感染症についての知識も乏しく、いかに正しい情報と手段に恵まれないまま妊娠の不安を抱いているかが浮き彫りとなった。看護学生は比較的情報を得ているはずだが、ピルについては副作用が多いとする答えが各群中最も多く、知識が正しいとは言えなかった。また、ピルの副作用を正しく認識するものも少なく、「不自然だから体に悪い」という回答が約5割を占めた。セックスが楽しめない理由では、「無理に誘われたとき」の4割に次いで「避妊してくれない」、「危険日のとき」など妊娠不安が目だった。性行動は活発でも避妊については主体的に選択しているというには程遠い現状であった。

健康の定義が変わる

千葉大学教育学部 武田 敏

WHOの設立50周年にあたって、健康憲章が改訂されることになった。詳細は本学会誌に近く投稿する予定であるが、ニュースとして以下紹介したい。理事会、委員会で議論され、1999年5月総会で議決される予定である。旧憲章に加えられたのはDynamicとSpiritualの2語である。従来、Physical（身体的）、Mental（精神的）、Social（社会的）、Well-being（良好な状態）を健康と定義されていたが、Spiritualがこれに加わると邦訳はどうなるのか、が問題である。厚生省から国としての見解が示されると思われるが、以下は個人的見解としてお聞き頂き度い。Mental Testは知能テスト、Mental Healthは精神保健と訳す。Mentalには幅広い意義があり、従来のように訳されて来たが、Spiritualとの意味の差が問題である。Spiritualには知識という意味ではなく、Spiritual Healthは心の健康又は精神的健康と訳し、Mental Healthを知的健康とするのが妥当であろう。他の一語Dynamicについて健康を（力）動的な状態と、とらえていることに注目したい。絶えず変動するもので現在健康の人も、これを保持増進するために日常注意と行動選択が肝要である、との意味であろう。又現在健康の人も、「より健康な状態」を志向して、ライフスタイルのあり方に心したいものである。新憲章の試訳を以下に示す。健康は身体的、精神的、知的、社会的に良好な動的状態であり、単に「疾病や虚弱のない」ことを意味するものではない。到達しうる最高水準の健康を享有することは、人種、宗教、政治的信念、経済的もしくは社会的条件の差別なく、万人の有する基本的権利の一つである。

DSM-IV 診断基準への私の疑問

東京家庭裁判所 針間克己

精神科医は日頃、米国精神医学会により制定された DSM-IV に従って、医学的診断を行うことが多い。性障害についても、DSM-IV による診断名を与えることとなる。普段はそのことにあまり疑問を感じることも多い。ところが最近、DSM-IV の性機能不全に関する原稿を書く機会を得て、その診断基準や関係する文献を熟読することとなった。そうすると日頃の不勉強のつけがでて、わからないこと、疑問な点が続出となつた。関連文献を読むことで、解決した疑問もあるが、深まるばかりの問題もある。現時点では、筆者の頭は混乱しており、何がどう問題なのか、その問題は筆者の勉強不足によるものなのか、DSM-IV が内包する問題なのかもよくわからない。そこで、わがままではあるが、この場を借りて、混乱したままの頭の中をさらけ出すこととした。そうすることで、みなさまからの何らかの御教示を得ることができたら幸いである。

疑問の第一は「性嫌悪障害」の位置づけに関してである。性嫌悪障害は「性的欲求低下障害」とともに、「性的欲求障害」に分類される。しかし、この性的欲求障害の「欲求障害」の意味が「欲求がないこと」を意味するのか、「欲求相に起こる障害」なのかがわからないのである。素直に考えれば「欲求がないこと」であろうが、性嫌悪障害はいくつかのデータ示すように欲求そのものは保たれていることが多い。そうすると阿部先生が指摘していたように、性嫌悪障害が性的欲求障害に分類されるのはおかしいこととなる。となれば、性嫌悪障害は「欲求相に起こる障害」と言う意味で性的欲求障害と解釈するほかなくなる。そうすればあまり矛盾はなくなるかもしれないが、厳密に性嫌悪障害が欲求相において起こるのかと断定できるかといえば、それもまた疑問である。

疑問の第二は「女性の性的興奮の障害」という疾患概念の存在である。診断基準そのものは勃起障害の女性バージョンであり、明瞭である。しかし問題は、この疾患がほとんど無視されたものであることだ。Medline 等でこの疾患名をキーワードに文献検索をしてもほとんど文献はない。教科書等を見ても「まれである」「主訴とするものは少ない」などと書かれている。つまり、医学的には何ら関心をひかれたことはなく、患者もほとんどいないようである。いわば「姿はあれど形は見えない」疾患なのである。このようなものが疾患として認知されているのは、その男バージョンである勃起障害が、男性性障害の代表的かつ象徴的存在であることから、それに対応するものとして、必要と考えられたからであろう。しかし、医学が実用的な学問であるとすれば、机上の空論だけで疾患分類を作ったところで、実際の患者がいなければ意味はないだろう。将来的には、三相概念や疾患における男女の対称性にあまりとらわれず、実用性を考慮し、女性は女性として、性障害分類を考えていくべきなのかもしれない。

疑問の第三は診断の併記記載についてである。DSM-IV では性機能不全がいくつかある場合、それは併記されることとなる。しかし、これがよくわからない。例えば、性欲がなくて、勃起しない男性はどうなるのだろうか。原則的に考えれば「性的欲求低下障害」「男性の勃起障害」と併記すべき、ということなのだろうか。しかし、誰しもわかるとおりに、最初に欲求がなければそのあとの性反応がうまくいかないのは当然だろう。そう考えれば「性的欲求低下障害」の診断のみを与えることになる。だが、人によれば性欲はあまりないが、そのあとの、興奮相、オルガズム相に問題はないものもいる。このことを考えれば、それぞれの相で障害があれば、すべて診断名を与えるべきとも思える。性反応というのが、欲求相、興奮相、オルガズム相、と連続して起こること、また、性機能不全を各相に対して全般性に起こすものや、逆にある特定の相に対して限定して起こすものもいることを考えると、診断の与え方は、非常に難しい。併記記載をきちんとするとせよ、しないにせよその診断だけで、患者の病態を正確に現すことは現状の診断分類では無理なのかもしれない。

以上まとめのないまま、思いつくままに性機能不全の DSM-IV 診断基準に関する疑問を記した。何らかの御教示をいただければ幸いである。

平成 11 年度 日本性科学会理事選挙に関する告示

理事選挙管理規程にしたがい、下記により理事の立候補を受け付けます。

立候補希望者は事務局にお申し出下さい。必要書類を郵送します。

なお、ブロックについては、第4回総会の承認に基づき、全国1ブロックとします。

1. 定 員 10名以内
2. 立候補資格 平成11年2月末日現在、入会後満3年を経過し、会員5名によって推薦された正会員
3. 立候補締切 平成11年4月15日
4. 申 出 先 〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F 長谷クリニック内
日本性科学会選挙管理委員会
TEL 03-3475-1780 FAX 03-3475-1789

平成11年3月15日

日本性科学会
選挙管理委員会

委 員 飯 沼 守 夫
矢 島 通 孝
本 郷 元 夫

選挙日程

投票および開票 5月

選挙結果の公表 日本性科学会ニュース6月号

以 上

資格認定について

認定制度委員会

「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」の資格認定に関する過渡的措置は今年度で終わります。申請の要領は次の6月号の学会ニュースに掲載いたしますが、「ケースレポート」の準備を早急に始められ、この機会に多くの方が申請されることを期待しています。

名簿作成中

日本性科学会会員に「日本性科学会名簿作成ご案内」を郵送し、返信葉書に必要事項をご記入の上、返送をいただくようお願いしました。その返信葉書の記入事項に基づき、事務局では名簿作成を急いでおります。まだ返信葉書をご返送いただいている場合は、大至急ご返送いただきますようお願い申し上げます。

尚、ご返送いただけない場合は、入会の際に御提出いただきました入会申込みカードを参考にして、記載させていただきますのでローマ字名が入らない場合がありますので、ご了承下さい。

会費納入のお願い

昨年10月より新しい年度（平成10年10月1日～平成11年9月30日）に入っていますので、平成11年度会費15,000円を未納の方は、納入をよろしくお願ひいたします。手数料が無料となります、会の郵便振替用紙を同封しますのでご利用下さい。